

6. 摘果

高品質な果実を収穫するために、適正な着果数に調整するために摘果を行います。

残す実は、果実が大きく重くなった時に枝や桃同士がぶつからない場所のものを
選び、葉からの栄養分を取り入れられるよう葉の下を残します。

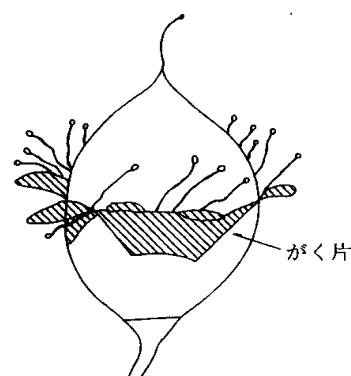
注意する点は、種の中にある胚が二つある双胚果は、**果実**の変形や実割れの原因
となりますので取り除きましょう。また、せん孔細菌病や灰星病、害虫被害がある
ものを除去します。

結果数の目安は、次のとおりです。

- ・長果枝（30 cm前後）は1～2個です。
- ・中果枝及び短果枝（20 cm～10 cm前後）は1個です。

(1) 予備摘果

- ① 満開後20日から30日頃までが予備摘果を始める時期となります。結実が確認でき、良好な品種から進めます。
- ② 満開後20日頃になると、生理落果する果実は果面の一部が茶緑色になり生気を失います。満開後30日頃までに自然落果します。
- ③ 受精果（落果しない）はがく片が基部から離れ萎びてきます。
- ④ 予備摘果時期が遅れると果実肥大効果が少なくなり、果柄が硬くなり取れにくくなります。
- ⑤ 予備摘果を始める時期の目安は、結実良好品種（白鳳、あかつき、なつっこ等）は、満開後20日頃（4月下旬頃）から、結実不安定品種（川中島白桃、秀峰等）は、満開後30日頃（5月上旬頃）から行います。**生理落果が多い川中島白鳳は最後にします。**



受精果は、果実が肥大してくると、
がく片が基部から離れ萎びてくる。
受精果

※以上は、凍霜害被害等の無い通常事の目安です。結実量が特に少ない場合は、樹勢調節と生理落果の抑制のため、予備摘果を遅らせるか見送ることが必要です。

(2) 着果量と着果位置

- ① 仕上げ摘果の倍の量が基準
 - ・長果枝（30 cm以上）⇒中央から先端に4～5果
 - ・中果枝（30～10 cm）⇒先端側に2～3果
 - ・短果枝（10 cm以下）⇒先端に1果
- ② 注意点
 - ・本摘果の倍量を残します。
 - ・大きくて扁平な果実を残します。
 - ・小さい果実、奇形果、病虫害被害果を落とします。
 - ・同節に2果着生しているものは1果にします。
 - ・葉芽がある果実を残します。

- ・側方から下向きの果実を残します。
- ・主枝や垂主枝上の果実や結果枝の基部の果実は落とします。

(3) 本摘果について

摘果は早く行うほど果実肥大の効果は高いのですが、時として生理落果や核割れ果があります。このため、摘蕾・摘花を含めた予備摘果と本摘果、さらに袋掛け時に行う見直し摘果を入れた、3段構えの着果管理が品質の良いものを揃えるために大切です。

① 時期

- ・果形の良否がはっきり判別できる満開40～50日頃が目安です。
- ※満開後50日以降から硬核期となります。核割れの多い品種ほど、この時期の摘果は避けたいものです。

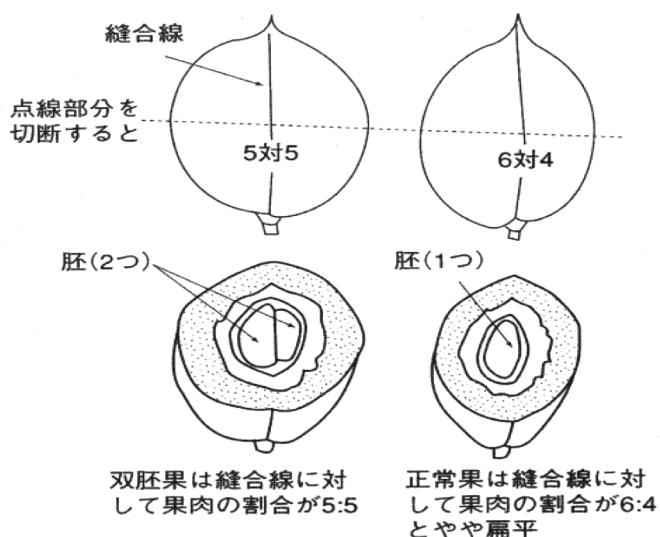
② 程度（結果枝別の着果基準）

- ・長果枝（30cm以上）⇒2個
- ・中果枝（30～10cm）⇒1個
- ・短果枝（10cm以下）⇒5本で1個

※大きい果実を残し、ガク片が残った发育不良果・変形果・病虫害被害果及び着果位置の悪いものを落とします。

③ 残す果実

- ・長手（ラグビーボール型）で大きく、正常な色沢の果実を残します。
- ・左右均等に肥大した丸い果実は、双胚果であるので落とします。



(4) 見直し摘果について

袋掛けの前に再度見直しを行い、障害果・小玉・着果位置の悪いものを落とします。